

平成28年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|---|-----|-------|
| 1 | 19番 | 中上禮一君 |
| 2 | 5番 | 窪野愛子君 |
| 3 | 6番 | 野口安男君 |
| 4 | 7番 | 小沼秀朗君 |
| 5 | 2番 | 雪山敏行君 |
| 6 | 17番 | 鷺山喜久君 |
| 7 | 11番 | 渡邊久次君 |
| 8 | 4番 | 大石勇君 |

平成28年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

3/8 AM 19番 中上禮一君

5番 窪野愛子君

PM 6番 野口安男君

7番 小沼秀朗君

3/9 AM 2番 雪山敏行君

17番 鷺山喜久君

PM 11番 渡邊久次君

4番 大石勇君

一般質問通告要旨

議席番号	19	氏名	中 上 禮 一	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 ステンドグラスのビジネス化について (答弁：市長)

昨年開催された美術館開館記念講演会の鼎談をお聴きして、工房の立ち上げやステンドグラスを生活の中に取り入れることはできないものかと思い、工房を数力所訪ねてみた。工房のお話は、愛好家の間では住宅の装飾や小物に用いられており、ステンドグラスの制作に興味関心を持っている方も増えつつある。今後、日本人の感覚や嗜好にマッチしたデザインを生みだせば、今まで気づけなかった癒しの空間を楽しむ新たな文化が創造できるのではないかとのことだった。そこで、以下2点について伺う。

- (1) 昨年11月の全員協議会の質疑で工房の立ち上げについて触れたが、工房の概要やスケジュールについて伺う
- (2) 鼎談で志田先生から、近代美術を採り入れた作品を制作することでステンドグラスの新しい分野が期待できるのではないかとのことがあった。掛川市の新しい産業としての可能性について市長の見解を伺う

2 県庁機能の誘致について (答弁：市長)

県は、藤枝市に衛生科学研究所を移転する方針で、2017年度着工との報道があった。

市長は常々、掛川市を中東遠の中核に位置付けたいと述べている。人口問題や地域創生を考えれば、県庁機能の誘致は有効な手段である。

- (1) 県庁機能の誘致に積極的に取り組むべきと思うが、市長の見解を伺う

3 掛川市制10周年記念プレミアム買物券「お千代小判」の効果について (答弁：市長)

販売当日、雨にもかかわらず生涯学習センターでは早朝5時から並び、センター一周の町内を一周するほどの行列ができたとのことである。買物券の有効期限は12月末であり、すでに事業が終了している。そこで、事業の効果について伺う。

- (1) 掛川区域、大東区域、大須賀区域それぞれの経済効果はどのくらいあったのか伺う

(2) 消費行動に見られる特徴として、どのようなことがあったのか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	窪野愛子	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 次代を担う心豊かでたくましい子どもの育成について (答弁：市長、教育長)

平成28年度から10年間の第2次掛川市総合計画基本計画がスタートする。すべての市民にとって、今現在が、そして将来にわたって「希望が見えるまち、誰もが住みたくなるまち掛川」であり続けるために、総合計画に掲げられたさまざまな施策を着実かつ効果的に推進しなくてはならない。昨今の社会情勢、経済情勢には大きな不安を感じるが、子どもたちを取り巻く現状にも喫緊の課題が山積している。

県教育委員会は就学前教育の充実を打ち出し、関係機関との情報共有など連携を強化していく方向にある。本市においても昨年4月から総合教育会議が開催され、新年度には教育委員会に教育部が設置されるが、こども希望部と教育委員会が更なる連携を図り、子育て環境を整備していくことが急務ではないか。

- (1) 待機児童解消対策に伴う保育所増設や市立幼稚園預かり保育事業により、学童保育所への更なるニーズの高まりが懸念されるが、現状と今後の対策について伺う
- (2) 放課後等教育支援かけがわモデル推進事業が3小学校区の学童保育所で実施された。その成果や課題を今後どのように活用し、発展させるのか伺う
- (3) こども希望部所管による放課後児童健全育成事業が全小学校区を対象とした29クラブで実施されているが、今後「放課後等教育支援かけがわモデル」や「放課後子どもプラン」の推進を図っていくためには、教育委員会が所管するのが望ましいと思うが、教育長の見解を伺う

2 掛川流協働によるまちづくり深化への取り組みについて(答弁：市長、教育長)

先行モデル3地区に続き、各地で「地区まちづくり協議会設立」の動きが活発化している。しかしながら、本年度の市民意識調査の結果では「協働のまちづくり」に対する認知度は相変わらず31.4%と低く、65.2%の市民が知らないと答えている。市はまちづくりの担い手育成に、庁内横断的にさまざまな事業を展開してきたが、その成果をどのように捉えているのか。新たな視点、新たな発想で、市民ニーズに沿った事業の検討が必要ではないかと思う。

- (1) まちづくり協働センターの3大機能(①人づくり②情報提供③事業提案・マッチング)について本年度の成果と課題を伺う

- (2) 市長マニフェストの一つとして社会教育課が所管し、60歳の市民を対象に平成22年度から「60歳の集い」が開催されているが、出席率は低調である。毎年、開催のあり方等を検討されているようだが、本年度の出席率は15%にも満たなかった。原因をどのように捉えているのか、教育長に伺う
- (3) 平均寿命の延びと共に、健康寿命を延ばす取り組みが必要である。「かけがわ生涯お達者市民推進プロジェクト」や「かけがわ生涯ワーキングシステム」構築のためにも「60歳の集い」を「65歳の集い」へと変更することはできないか、市長の見解を伺う
- (4) 協働のまちづくりを推進する担い手を育成するために、平成23年度から実施されてきたまちづくり塾であるが、事業継続のために受講生減少の原因究明や内容の見直しを図り、本年度「掛川市民学舎」と名称を変更し開催されたが、市民ニーズと合致したものであったのか。
今後は、地区まちづくり協議会での人材育成へと転換する時期ではないか、市長の考えを伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	6	氏名	野 口 安 男	質問の方式 (一問一答)・一括
------	---	----	---------	-----------------

1 「高齢者支援」への取り組みと課題について (答弁：市長)

高齢者が、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために、行政として多くの取り組みをしている。その中で地域や企業と連携して行っている事業が、今後ますます重要になってくると考える。そこで、取り組みの現状と課題について伺う。

- (1) 社会福祉協議会で行われている高齢者への声掛けなどの「小地域福祉ネットワーク」は、市内全体でどれだけの組織があり、どのような取り組みをしているのか伺う
- (2) 小地域福祉ネットワークの取り組みに対して、各地域への財政的な支援はどの程度か伺う
- (3) 平成28年の施政方針のなかで、「認知症ケアパス」を平成27年度中に作成するとあるが、進捗状況について伺う
- (4) 認知症ケアパスを活用した徘徊等に対応するネットワークの構築とあるが、具体的内容について伺う
- (5) 企業との連携における見守りネットワークの現状と課題を伺う

2 「いじめ」について (答弁：教育長)

掛川市は、平成27年度からの11年間で、「教育大綱かけがわ」による教育をすすめようとしている。また、本市では、昨年2月議会において「いじめ防止条例」を制定し、いじめの防止に市民ぐるみで取り組むとしている。

いじめは大きな問題であり、必ず根絶しなければならないことである。そこで、掛川市の取り組みについて教育長に伺う。

- (1) 掛川市の平成27年度における「いじめ」の現状を伺う
- (2) いじめ防止対策として、各学校は、どのような取り組みをしているのか伺う
- (3) 教育委員会は、「教師が見逃してはならない子どものサイン」や「いじめ問題への取組確認チェックポイント」を徹底するために、どのような取り組みをしているか伺う
- (4) いじめが発生し、「掛川市いじめ防止対策推進委員会」や「総合教育会議」が開催されたことがあるか伺う
- (5) いじめの根絶に向けての教育長の決意を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	小 沼 秀 朗	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 かけがわ茶エンナーレについて (答弁：市長)

文化の薫り高き掛川市では、緑茶を入れて大切なお客様をおもてなしするという茶文化が根付いている。お茶の葉を急須に入れて飲むことが日常化されていることも、茶処ならではの食文化といえる。

本定例会の市長施政方針で、第2次総合計画の重点施策の1つである「掛川への新しいひとの動きをつくる」ための取り組みとして、文化振興をはじめとする9つの施策が述べられた。

この文化振興策の目玉である「かけがわ茶エンナーレ」は、平成27年度から3年を掛け「茶のまち掛川」を世界に向け発信する素晴らしい事業である。1年が経過しようとしている中で、その実績と今後の展開について伺う。

- (1) 「茶エンナーレ」は、交流人口の増加をねらうのか、定住人口の増加まで見込むのか伺う
- (2) 初年度である平成27年度には700万円の予算が計上されたが、その使途と効果について伺う
- (3) 平成28年度予算に2,000万円が計上され、平成29年度には本番を迎えるとのことだが、2カ年の事業内容の詳細を伺う
- (4) 茶生産者や茶商、茶業に携わる皆様と、どのような連携を図るのか伺う
- (5) シンボルロゴを使用した商品展開やその他関連事業をどのように計画し、どれだけの経済効果を見込んでいるのか伺う
- (6) 本事業の目指す姿とはどのようなものなのか伺う

2 学童保育所の待機児童問題について (答弁：市長)

本定例会の市長施政方針の中で、第2次総合計画の重点施策に「掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする」こと、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ことが掲げられた。働きながら子どもを育てる環境を整備していくことは、魅力ある掛川に向け、今後、最も重要な事項と考える。そこで、以下について伺う。

- (1) 現在、学童保育所に40名の待機児童が生じている理由として、1人当たり1.65㎡の面積要件と放課後児童支援員確保のマンパワー不足が原因とのことだが、早急に解消する考えはないか伺う

- (2) 市内で最も待機児童数の多い西山口小学校は、敷地外に学童保育所があるので、学校敷地内にある地域生涯学習センターで放課後児童クラブが活動できるよう、まちづくり協議会と連携し、地域で子どもを育てる施策展開ができないか伺う
- (3) 平成28年度から分割保育を開始予定の西郷小学校と横須賀小学校は、現在どちらも待機児童は発生していない。学童のニーズを予測する困難さも伺えるが、今後どのように学童問題を考え対応していくのか伺う。

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	雪山敏行	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

1 公共施設等総合管理計画の策定について (答弁：市長)

厳しい財政状況や少子高齢化が進む中、公共の建物や道路河川等の公共施設が老朽化し、これらの適切な維持管理及び施設更新は、今後の自治体経営にとって大きな課題である。

掛川市の公共施設の現状を見ると、施設の老朽化に伴う維持管理やインフラの補修費の増加など、公共施設の維持管理更新に係る課題も顕在化している。

今後とも豊かで住みやすい掛川市であるためには、中長期的な視点に立って、安易な更新計画ではなく、施設の統廃合を含め抜本的な総合管理計画を策定し、市民の理解を得て公共施設マネジメントをすべきであると考えている。

そこで、計画の策定状況及び計画的な維持管理更新のための基本方針について伺う。

- (1) 調査・分析から、管理計画の対象となる施設の種別と量及び管理上の課題について、どのようなことが明らかになったのか伺う
- (2) 公共施設の持続的な機能確保が求められている。その維持管理・更新にかかる年間経費は現時点での試算でどのくらいになるのか、また、掛川市はこの財政負担に耐えられるのか伺う
- (3) この管理計画では、施設の統廃合、施設の長寿命化、財政負担の平準化等総合的な計画が策定されるものと考えているが、今後の維持管理・更新の基本方針をどのように考えるか伺う
- (4) 利用圏が広域となる施設の更新にあたっては、市域を越えた調整が必要と考えるが、これにどのように対処されるのか伺う
- (5) 総合管理計画の策定にあたっては、市民の理解のもとに進めることが大切であると考えているが、これにどう対応するのか、併せて計画策定スケジュールについても伺う

2 新東名高速道路延伸と北部地域の開発について (答弁：市長)

新東名高速道路が、平成28年2月13日に豊田東ジャンクションまで開通した。また、首都圏中央連絡自動車道も開通し、東濃方面や北関東方面との交通の利便性が飛躍的に向上し、「ひと・もの・情報」の流れが東名高速道路から新東名高速道路に移りつつある。このことを見据えて県内はもとより、愛知県内等でも流通業務団地や工場団地を競って開発している。

新東名掛川パーキングエリア付近には未活用市有地である旧スポーツ振興跡地

がある。跡地130haのうち50haは上西郷工業団地として具体化が進み、現在、進出企業決定待ちの状況にあるが、残りの80haの活用計画が定まっていない。

掛川市の豊かさを実現するうえで、この未利用市有地の活用を計画的、戦略的に推進することが必要である。活用戦略のキーポイントは、新東名高速道路が有している「ひと・もの・情報」の流れを取り込むことであると考えている。

そこで、次の4点について伺う。

- (1) 新東名高速道路延伸を契機に、各地で産業の将来方向を見据えた開発計画が進んでいる。掛川市でも産業振興のグランドデザインを描き、これに基づき産業振興を図る必要があると考えるが所見を伺う
- (2) 市所有のスポーツ振興跡地の残り80haの活用計画が見えない。早急に活用計画を策定し、計画的に事業推進を図るべきと考えるが、どのように取り組むのか伺う
- (3) 上西郷工業団地は誘致する企業が決まらず工事着手できていない。オーダーメイド方式を原則としている本市の開発手法から、一部に進出企業が決定すれば工事着手する手法に見直す考えはあるのか所見を伺う
- (4) 掛川PAのスマートインターチェンジ設置は、アクセス道路整備（県道焼津森線）の課題があり、設置の見通しがたたない状況にある。しかし、市道滝の谷真砂線の拡幅整備により、アクセス問題は解決できるのではないか。スマートインターチェンジの設置が未利用市有地活用のセールスポイントになると考えるが所見を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	17	氏名	鷺山喜久	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 行政職員数の減少について (答弁：市長)

平成17年度から平成28年度の間正規職員は累計で162人減である。また、非常勤職員は同期間57人の増で、全体では105人の減である。行政職員数の減は、平成28年度組織編成における基本方針に逆行しないか伺う。

- (1) 正規職員の減少は、国による「構造改革」や「官から民」の動きに沿ったものなのか伺う
- (2) 平成27年度から再任用制度を活用しているが、正規職員が不足しているのではないか伺う
- (3) 効率や結果を追求するあまり、職員のストレスがたまり病気療養や休暇中の職員がいるのではないか伺う
- (4) 平成23年度を除き、平成27年度まで2桁単位で減り続け、平成28年度は4人減となるが、平成29年度以降も減らし続けるのか伺う
- (5) 災害発生時や復旧・復興を行う時に、通常業務を行う職員と災害対応の職員が一定数必要と思うが、正規職員数は充足されているか伺う

2 農業用溜池の法面や池周辺の草刈りについて (答弁：市長)

高齢化や後継者不足等の理由で草刈りが困難になっている。溜池の多い掛川市では大きな問題となりうる。そこで伺う。

- (1) 多面的機能支払交付金制度の活用はできないか伺う
- (2) 溜池本来の目的は、農業用水としての利用であるが、公園や防火用水等としての利用を広げ、企業や地域と協働して環境美化活動に取り組むことはできないか伺う
- (3) 草刈業務員を増員し、道路だけでなく溜池の草刈りもできるよう、拡大利用する考えはないか伺う

3 公契約条例について伺う (答弁：市長)

全国各地で制定に向けた運動や自治体の調査・検討が広がる公契約条例は、公共工事など民間事業者への発注に関し、雇用される労働者賃金の最低基準額の確

保を主目的とするもので、労働者の生活安定が、安全安心な街づくりにつながる。
そこで市長に伺う。

(1) 県内自治体では条例制定されていないが、制定する考えはあるか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	渡 邊 久 次	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 介護保険事業の法改正による新総合事業への移行について (答弁：市長)

医療介護総合確保推進法の施行に伴う新介護保険事業への移行に向けて、掛川市介護保険条例の一部改正が提案されている。法改正により、特別養護老人ホームへの入所が、原則として要介護3以上に変更されたり、要支援1と2の要支援者に対する訪問介護と通所介護を介護予防給付から外し、基礎自治体で行う地域支援事業(新総合事業)へ移行することになっている。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 法改正により、特別養護老人ホームに入所できる方は、原則、要介護3以上に限定されたが、入所者の要介護割合に変動があったのか伺う
- (2) 要支援1や2に認定された場合、訪問介護や通所介護等の介護予防給付からは外されるが、どのような代替サービスが受けられるのか伺う
- (3) 介護予防給付等を新しく受ける場合には、ケアマネージャーからの専門的な指導と援助が受けられるようになっていたが、新しい地域支援事業でも同じように専門的な指導と援助が受けられるのか伺う
- (4) 地域支援事業に移行すると、より多様な介護サービスが受けられるようになると聞いたが、どのようなサービスが受けられるのか伺う
- (5) 平成27年度に介護報酬の引き下げが行われたが、介護サービスの面から良かった点、悪かった点を伺う

2 市民の多様なニーズに応える公共交通の整備について (答弁：市長)

高齢化社会の進行などによって、移動手段が少ない交通弱者が増えている。平成28年施政方針の中に、第2次総合計画の4つの重点施策の1つに「掛川への新しいひとの流れをつくる」とあり、具体的施策として公共交通対策が掲げられている。交通弱者のための公共交通空白地域の解消だけでなく、あらゆる世代の市民が「健康で文化的な最低限度の生活をする」ためには、多様なニーズに応える公共交通の整備が重要であると考えている。そこで、公共交通整備をどのように進めるのか伺う。

- (1) 4月から公共交通空白地域となる中地区について、どのような代替交通が検討されているのか伺う
- (2) 4月から実証実験を始める掛川大須賀線は、どのような運行が計画されて

いるのか伺う

- (3) 自主運行バスが運行されているが、収支率の低いバス路線の今後の見通しについて伺う
- (4) 地域福祉バス事業が原田地区、東山口地区に加え、倉真地区でも計画されているが、運行している地域の利用状況について伺う
- (5) 3地区で運行されているデマンド型乗り合いタクシーの利用率や利便性の向上について、どのような方策を考えているか伺う
- (6) 前定例会において市長は、菊川市のコミュニティバスについて、「しっかりと調査し、取り入れる点があれば取り入れたい。」と答弁されたが、その調査結果について伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	4	氏名	大 石 勇	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	-------	-----------------

1 掛川市の観光振興について

(答弁：市長)

本市に観光客誘客を促進するためには、掛川城を中心とした周辺の観光施設をはじめ、市内に多くある観光地を連携させて事業展開を図り、複数のグルメ・まつり・イベント等により滞在時間を長くすることも必要である。また、近隣市町の歴史と文化を認識し、広域的に観光資源を組み立て協力し合うことも、訪れる人の増加に繋がると考える。

そこで次の4点について伺う。

- (1) 観光客誘客を促進するために、天竜浜名湖鉄道沿線の市町と広域にわたる取り組みを行う必要があると思うが、市長の考えを伺う
- (2) 2017年のNHK大河ドラマは、浜松市北区が舞台となる「おんな城主直虎」に決定し、大河ドラマ館も天浜線気賀駅付近に開設となるようである。
本市もこの時代の歴史に関わりがあると思うが、大河ドラマを応援することや観光面での繋がりをどのように考えているのか伺う
- (3) 近隣市町（静岡遠州観光ネットワーク）の間では、歴史と文化、観光資源等の情報を共有し、観光振興を図るべきと考えるが、市長の考えを伺う
- (4) 観光客に複数の観光地を巡ってもらうためには、市内観光地への交通アクセスの向上が重要であると思うが、市長の考えを伺う